【岩手県内の大学生に対する多文化共生意識調査】

概要

平成 27 年 4 月 10 日(金)	岩手医科大学歯学部学生	58 名
平成 27 年 6 月 25 日(木)	岩手大学農学部学生	31 名
平成 27 年 12 月 11 日(金), 18 日(金)	岩手大学教育学部学生	10 名
		合計 99 名

次世代を担う上記の学生を対象に、多文化共生の講義とワークショップを開催し、大学生の目線からの多文化共生意識に関する調査を行ったところ、道路標識、看板、ガイドマップ、メニューなどの多言語による表記が必要であり、同時に日本語講座も必要であるという声が多くありました。また日本人側の国際理解に対する意識向上や受け入れ態勢の必要性も重要であると捉えています。それぞれの文化を尊重し、思いやりの心を持って相互理解に努めていくことが多文化共生につながるとの共通認識を持つことができました。

大学生の意識調査

岩手医科大学歯学部58名、岩手大学農学部31名、教育学部10名、計99名の回答より

Q1：あなたが考える「多文化共生」とは？（具体例とともに）

※複数回答あり

主な具体例として　①：文化、スポーツ、食べ物等の国際交流イベントへの参加。イベントを通して、お互いに知る・接する・交わる

②：施設案内、道路標識等の多言語表示、公共交通機関車内アナウンスの多言語化、メニューの多言語化、日本語教室、各国料理のレストランや食材売場が街にあるなど

③：文化などの違いを認め合う

④：英語を学ぶ

⑤：防災

また、上記 歯学部の学生には、次の質問も行いました。

Q2：医療現場で考えられる国際交流・国際理解の場面を想定し、どのように対処し、何が必要なのか？

1. コミュニケーション能力、語学力の必要性
2. 専門的な医学用語のわかる通訳の必要性
3. 患者の出身国の医療や保険事情の情報収集と理解
4. 宗教による習慣等の理解、異文化理解
5. 治療に関する情報提供（日本の医療体制、薬、施術内容、痛みの程度の表現等）
6. 案内表示の多言語化